



学校だより 1 1 月号

親子で食事 親子で会話
親子で読書



校長 鈴木 学 平成25年11月22日

ようこそ先輩/音楽会(奥田久美子さん)

「劇団四季」の歌声に感動の涙

昨年の佐藤ひろ子さんに続いて、今年度もオープンスクールで「ようこそ先輩！音楽会」を開催でき、大変嬉しく思いました。

「劇団四季」で永年活躍された奥田先輩の歌声に、高学年の児童の目からは、感動の涙があふれていました。

児童の感想が素晴らしいので、そのまま紹介します。

- ぼくは、奥田さんがふしぎに思いました。声は大きくてきれいだし、リズムもいいし、休むところもちゃんとあって、やっぱりすごい人なんだと思いました。歌を一番あいしているんだなと思いました。(低学年男子)
- 初めの一声を聴いたときから鳥肌が立った。鑑賞会が終わると感動で泣いてしまう人がいるほどよかった。「キャッツ」の歌は歌詞もよかった。奥田さんの歌声は堂々としていて強弱がはっきりし、それから一語一語がていねいだった。歌の風景が想像できた。佐々木さんのピアノの音色もキレイで二人の息もぴったりだった。終わった後、もう一度聴きたくなるほどいい歌だった。直接お礼を言いたかった。(高学年女子)
- わたしが心に残った曲は、「たびだちの日に」です。これは、朝の会でも歌ったりするので、リズムに乗って体を動かして楽しかったです。私の歌より声が高く、きれいな声だなと感動しました。(中学年女子)

来週、奥田さんが6年生に音楽の授業をしてくださいますので、そちらも楽しみです。

子どもたちには、夢を叶えて活躍されている先輩と直接触れ合うことで、自分の夢をさらに大きく膨らませてくれることを期待します。



先生方も参加

自分への挑戦！持久走記録会

本校では、約20年前まで、学校の周囲(六美北部地区)をコースとして、持久走大会が行われていましたが、高速道路の工事が始まり、また、全国で持久走による事故が続いたことも重なって、それ以来ずっと行われていませんでした。今年、久々の復活となりました。

4年生担任の先週の週プロに、次のような感想が書かれていました。

日数を重ねていくうちに、目標をもって持久走の練習に取り組む子が増えました。それぞれのゴールは違っても、昨日より1周でも多くという、目標をもって取り組んだ経験は、これから何事にも生きてくるものと思います。

この言葉どおり、全体練習が終わっても黙々と走り続ける子が、少しずつ増えていきました。

さて、本番当日・・・1位を目標にがんばったのに、それが叶わず悔し涙を見せていた子、順位は遅くとも、練習の記録を大幅に更新し満足そうな笑顔を見せていた子・・・。

子どもたちの挑戦する姿、そして、涙や笑顔がたくさん見られたのが、大変よかったと思います。

なお、今年度1位の記録は、各学年の新記録として、来年度以降の目標記録となります。



私も、健康のために持久走の練習にできるだけ参加することにしました。参加するからにはと、子どもたちに習って目標を作りました。実は、密かに1年生のAさんを「ライバル」と決めたのです。初日は付いて行くのが結構大変でしたが、少しすると体が慣れたのか、どうにか互角の勝負ができるようになりました。

記録会本番、私の小さなライバルは、練習の時よりかなり調子が悪く、辛そうでしたが、それでも歩かずに見事完走しました。

音読や計算も一生懸命がんばるAさん、来年、2年生になり成長したあなたは、もう私のライバルにはなってくれないでしょうね。

残念だけど、それは嬉しいことでもあります。その時は、またこっそり、1年生から新しいライバルを見つけようと思っています。

休校を惜しむ子どもたち

10月16日は、台風26号の影響で休校になりました。その前日、A先生が、クラスの子に明日は休校であることを伝えると、なんと

「えー！！、つまんなーい！」
という声が上がったそうです。

「間もなく転校してしまう子がいて、その子と一緒にいる時間が、1日分少なくなってしまうことを残念に思っている言葉だと思います。」

と、A先生は話していました。

休校となれば喜ぶのが、ほとんどの子どもたちです。それを残念に思う優しい子どもたちがどうしたら育つか、不思議に思っていました。その謎が少しだけ解けた時がありました。

10月号でお知らせしたように、『「挨拶の詩」暗唱合格ご褒美デザート』が、10月29日の給食に出ました。

子どもたちの反応を見たいと思い、教室を回ってみました。どの教室も子どもたちは大変な喜びようで、「校長先生ありがとうございます。」なんて言ってくれる子もいました。

A先生の教室に行くと、先生が「このデザートを食べるとね、挨拶が上手にできるようになるよ。」と優しく子どもたちに話していました。

この言葉を聞いて、私は大変恥ずかしい気持ちになり、今更ながら深く反省したのです。実は、先に回った高学年のクラスで、「このデザートを食べたら、挨拶しなくちゃだめだよ。」などと、恩着せがましく？& 打算的に？言ってきたのです。文字にすると僅かな違いですが、温かさにおいて実に大きな違いがあります。

いつも温かみのある言葉がけがなされているA先生のクラスだから、あのようによい子どもたちが育っているのだと改めて思いました。



転んだ子をみんなで送ってあげる 1年生

1年生の下校の様子を見てみようと、自転車で出かけました。ある下校グループの子が、横断歩道を渡った所で転んで、膝小僧をすりむいてしまいました。自転車の後ろに乗るのを拒むぐらいの軽傷です。それでもグループの子どもたちは、相談の上、みんなでその子を家まで送ることにしました。

当然、遠回りになったりして、いつもとは少し違うコースになる子もいます。この優しさに感心し、私も後について行きました。

無事送り終えて、笑顔でそれぞれ自分の家に向かいました。すると、最後に一人になった子が、「あれ？」と困った顔になりました。自分の家への道が分からなくなってしまったようです。「〇〇ちゃんちの隣で、赤い車が止まっている家なんだけど・・・？」、うーん、困った。こんな明快な説明を、残念ながら私は理解してあげることができません。（せめて、「赤い屋根の家」ぐらいのヒントならば・・・）

少したって、そんな頼りない私に「校長先生、駅はどっち？」というこれ以上無いヒントをくれました。このヒントにより辿り着いた家は、まごうかたなき「〇〇ちゃんちの隣で、赤い車が止まっている家」でした。

次の日、この子は、「校長先生、おはようございます。昨日は送ってくれてありがとうございます。」と、きちんと挨拶をしてくれました。

「こちらこそ、心温まる楽しいひと時をありがとう。」そんな気持ちになりました。

この優しさと礼儀正しさを、いつまでも大切にしたいと思っています。

